

2018年9月号 No. 188

## 歯の根の治療

今月はしんのうが担当です。今回はおそらく「何をやっているのか分からない治療ランキング」があればトップ3には入るであろう「根の治療」のお話です。経験された方は分かると思うのですが、「1回の治療は短いのに、何回も通わされる・・・」と、一般的にはそんな風にいわれることの多い治療です。この誤解を解いておきたい！と思い、今回記事にしてみました。

まず、この治療が必要になる「根の病気」のお話からです。根の病気とは、歯の神経のあった管などから入り込んだバイ菌が、なの根っこの先を膿ませて、根の先の骨を溶かしながら膿溜まりを作ってしまう病気のことです。

原因がバイ菌の感染なので、当然治療はバイ菌を取り除く、というものになります。一般的に、バイ菌を取り除くにはいくつか方法があって、1つは物理的にバイ菌を取ることです。もう1つは消毒液や薬などで化学的にバイ菌を取り除くことです。そして一番重要なのが自身の身体の免疫力でバイ菌を排除していくことです。

歯の根の治療の場合、なんと！これらすべての方法が必要になります。医学的には免疫力での排除が最も理想的です。ところが歯の根の先の骨(があった)部分に関しては免疫力が及ぶのですが、感染経路になっている歯の神経があった細い管は免疫力

9月6日・13日(木)は休診です。

9月20日・27日(木)は午前中診療します。

よろしくお願いたします。

が及ばない為、物理的、化学的な方法も必要になります。

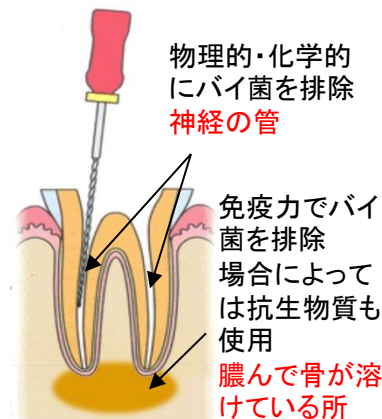
具体的には、まず最初に歯の神経があった細い管(感染経路、免疫力が及ばない)ところを針のような器具を使ってバイ菌を掻き出します。これが物理的な方法。ここでやっかいなのが、この神経の管、形が非常に複雑で、しかも人によって形が全く違うので、1回でバイ菌をすべて掻き出す事ができないことも良くあります。この時点で少なくとも治療が1回以上必要になります。

そうしてキレイにした神経の管に消毒液などを詰めて仮蓋をして再感染や根の先からのバイ菌の逆流を防ぎます。また、バイ菌の量が多い場合などは抗生物質も併用します。これが化学的な方法。

これらの方法を繰り返しながら、根の先へ入り込み、膿を作り出しているバイ菌を免疫力が排除するのを待ちます。ここもやっかいで、入り込んだバイ菌の量はその時々で異なりますし、免疫力も年齢や体調などに影響され、その時々で変わってきます。なので、どれくらい待てばバイ菌がいなくなるかの見極めが難しくなります。この部分の治療が長引くケースが多いです。

と、そんなこんなで回数がかかることが多い治療なのでした。

ちなみに外から見ると似たような印象を受ける治療に「神経の治療」もあるのですが、それはまた機会を改めて・・・また字だらけ・・・



医療法人 SHT  
まき歯科・矯正歯科クリニック  
Smile Health Thanks



〒700-0975 岡山市北区今3-1-35

TEL 086-243-1006

FAX 086-243-1106

HP: <http://www.maki-dental.jp>

Mail: [makishika@do5.enjoy.ne.jp](mailto:makishika@do5.enjoy.ne.jp)

まき歯科ブログはこちら↓ よろしくね。

<http://blog.livedoor.jp/makishika/>